



— ふ ぐ る ま —

図書館だより 169号

(2012.4.1)

三郷町立図書館

三郷町勢野西1-4-4

TEL/0745(33)3030

FAX/0745(33)3188

<http://www.lib.sango.nara.jp/>

<http://www.lib.sango.nara.jp/mobile/>

「子ども読書の日」

4月23日は「子ども読書の日」です。シェイクスピアとセルバンテスの命日である23日を、ユネスコが「世界・本と著作権の日」と定めており、それにちなんで「子どもの読書活動の推進に関する法律」で決められました。さらに23日から5月12日までを「こどもの読書週間」としています。また、アンデルセンの誕生日である4月2日は「世界子どもの本の日」です。

子どもの頃の読書習慣は大人になっても残るものです。多くの子どもたちに図書館でいろんな本に出会ってほしいものです。

4月 図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

5月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

【休館日】

- ・ 毎週水曜日
- ・ 4月2日(月) — 館内整理日
- ・ 4月30日(月) — 昭和の日の振替休日
- ・ 5月3日(木) — 憲法記念日
- ・ 5月4日(金) — みどりの日
- ・ 5月5日(土) — こどもの日
- ・ 5月7日(月) — 館内整理日



「名言」「格言」に学ぼう

長い不況下にある現代では「昔の偉人に学ぶ」ビジネス書がよく売れるそうです。歴史に名を残す人物は何らかの名言・格言を持っており、それは時代を経ても色褪せることはありません。以前はなんとも思わなかった言葉に「なるほど」と合点がいたり、言葉の含蓄に「人生の真実」を発見することもあります。

仕事や人間関係に疲れている現代の人々にとって、先人の残した言葉は新たな人生を切り開く道しるべになるかもしれませんよ。

『生きざまの名言死にざまの名言』赤根 祥道^{しょうどう}：著 159.8 ア

『その一言が歴史を変えた』ヘルゲ・ヘッセ：著 204 ヘ



戦国時代・幕末の名言

「上を学ぶ下と言ひて、大将少しくつろげば、下々は大に油断するものなり」

—加藤清正—

(訳：上が少しくつろげば下は大いに油断するから上の者は常に用心せよ)

「英雄去りし後の気、秋の如し」 —伊藤博文—

戦国・幕末という明日をも予測できない激動期において、判断ひとつ間違えれば即、死に繋がる状況で生きるために、また時代を変革するため精力を注いだ人々の言葉は机上の思考とは異なりリアルで説得力に満ちています。

『戦国武将のひとこと』鳴瀬 速夫：著 159.8 ナ

『名言で読む幕末維新の歴史』外側 淳：著 210.58 ト



ビジネスの父の箴言

「満足は衰退の第一歩である」 —渋沢栄一—

「これが俺の仕事ときめたら迷わずつらぬく」 —松下幸之助—

渋沢栄一と松下幸之助は「資本主義の父」「経営の神様」と言われ、彼らの残した言

葉は世界中のビジネスマンに影響を与えています（あのドラッカーも渋沢栄一を絶賛しました）。二人は経営のみならず、人材育成にも力を注ぎ、現在の日本の発展はこの二人なくしては語れないと言われています。

『渋沢栄一 100 の訓言』渋沢 健：著 B159 シ

『松下幸之助 一事一言』大 久光：著 B159 タ

人間学の宝庫－中国の古典

「^{ひとたれ}人誰か^{あやま}過たざらん。^よ過ちて能く改むる、善これよりも大なるはなし」－左伝－
(訳：人間であるからには誰でも過ちをおかす。その過ちに気付いたら改める、これよりすばらしいことはない)

中国古典は人間学の宝庫とされています。人間をどうとらえるか、人生をどう生きるべきか、また上に立つ者はどうあるべきかなど、人間学の広範なテーマがさまざまな角度から説きあかされています。これら名言のひとつひとつに生き方のヒントがあり、現状打破への真理がかくされています。

『四〇〇〇年を学ぶ中国名言読本』 邱 永漢：著 159.89 シ

『人間を読み人生を読む中国古典の名言録』 守屋 洋：著 B159.8 モ

日常に溢れる名言

「愛する人にとってお互いの心が何よりも大切な家じゃないのか？何もなくなったっていいさ、心があれば・・・」 －韓国ドラマ「冬のソナタ」－

「ここにいるよ あなたが迷わぬように ここにいるよ あなたが探さぬように」
－元ちとせ「ワダツミの木」－

「ここからいなくなってもいつも一緒にいるから」
－片山恭一：著「世界の中心で愛を叫ぶ」－

『『疑われない事』それが『強さ』だ!!!』
－尾田栄一郎：著「ワンピース」－

名言・格言はなにも過去の偉人が言ったから生まれるわけではありません。上記にあるように「ドラマ」「歌」「小説」「コミック」と私たちの日常にも様々な名言が生まれています。名言とは自分の思っていることを率直に、そして真剣に相手に伝えることによってはじめて生まれるのではないのでしょうか。

『心に残る言葉』 大河内 昭爾^{しょうじ}：著 159.8 オ

『わたしたちの名言集Best 100』 159.8 ワ

『ワンピース・ストロング・ワーズ』 内田 樹：解説 726.10 オ

4月の行事予定

★おはなし会(毎週日曜日におはなしルームで行います)

今月は1日・8日・15日・22日・29日です。

▽小さい子ども向けのおはなし—午前10時30分～10時50分

▽大きい子ども向けのおはなし—午前11時～11時30分

※土曜の午後のおはなし会

4月28日(土)午後2時よりおはなしルームで行います。

★図書館上映会(毎週土曜日 午後2時より視聴覚室で行ないます)

7日(土)「夫婦善哉」(1955年 121分)

豊田 四郎:監督 森繁 久彌:出演

14日(土)「祇園の姉妹」(1936年 68分)

溝口 健二:監督 山田 五十鈴:出演

21日(土)「ハスラー」(1961年 135分)

ロート・ロッセ:監督 ポール・ニューマン:出演

28日(土)「明日の記憶」(2006年 122分)

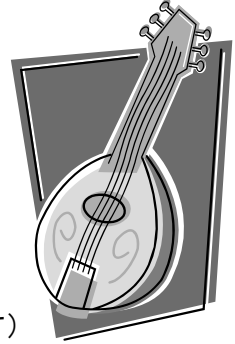
堤 幸彦:監督 渡辺 謙:出演

☆フロアーコンサート

日時:4月28日(土)午後4時～4時30分

場所:図書館2階 おはなしルーム前

演奏:ブルースカイ



■生涯学習室開室のお知らせ

期間:4月1日(日)～6日(金)(休館日を除きます)

午前9時30分～閉館30分前まで

対象:町内在住の利用者

※ご利用される方は、図書館利用カードをカウンターにお持ちください。

☆長期貸出のお知らせ☆

5月の連休のため、5月2日(水)～5日(土)まで休館しますので、4月19日より5月1日まで長期貸出を行います。

- ・ 図 書 : 4月19日(木)から3週間貸出
- ・ 視聴覚資料: 4月26日(木)から2週間貸出

読書ノートⅡ 『クラバート』

『クラバート』は水車場で働く魔法使いの少年の物語。ドイツの児童文学作家プロイスラーが1971年に発表した。ドイツ児童文学賞（1972）ヨーロッパ児童文学賞（1973）を受賞。1977年にチェコスロバキアで、2008年にドイツで映画化。

日本では1980年に翻訳され偕成社から出版。その頃この出版社は『現代のジュニア文学』として定期的に海外の児童文学を翻訳・出版していて、当時の私はよく読んでいたが今でも読み返すのはこの一冊である。数年おきに思い出したように読みたくなる。そして何度読んでもおもしろい。

実際、この物語は「ドイツの黒い森」を思わせるように地味だが見せ場の連続で、手に取ると「一気に読ませる」力がある。初版が刊行されて30年以上たつが、今でも出版されているし図書館にもある。けれども私の知る限り、「日本の新聞の書評でこのファンタジーが評価されている」のを見たことがない。なぜだろう・・・なんとなく理由がわかる。これは群を抜く簡潔無比な文体・構成で書かれていて「つけこむスキ」がないからである。

そしてファンタジーの^{クラシック}古典になろうとする『はてしない物語』、『モモ』、『指輪物語』、『ゲ

ド戦記』、『ナルニア国物語』等に登場する主人公たち・^{ストーリー}物語とは違い、これは「労働者が主人公のファンタジー」だからである。ドイツの水車場職人の生活と仕事、また村の生活に織り込まれるキリスト教の祭典の喜びが、生き生きときめ細かく描かれている。だが、この物語が異彩を放つのはまた別の理由と思う。これは「社会の現実を知ってしまったオトナ」の誰もが「身につまされる思い」のする人生の試練、また「自分の才能を生かして働く喜び」が実にリアルに描かれているのである。だから、子どもよりも「社会の現実、そして苦勞の多くてもやりがいのある仕事」を知っている大人の方が、この物語にどこか「無償のいたわりの言葉」に似た感動をおぼえるのでは・・・と思う。

舞台は17世紀初頭のドイツ、当時はザクセン侯国と呼ばれていた。両親を失い、仲間の少年と3人で物もらいして放浪している少年クラバートは、ひよんなことからある水車場の徒弟として11人の仲間と働くことになる。だがここは小麦の粉を挽く普通の水車場ではなかった。ここは魔法の学校でもあり、親方が夜、弟子たちに魔法を教える。それは人心のみならず森羅万象を（一国の政治・軍隊さえも）自由に支配できる恐るべきものである。そしてその水車場は小麦だけではなく、死んだ人間の骨も挽いている。ここは毎年、親方の身代わりに徒弟の誰かが死ななければならない。それを知ったクラバートは、親方に、決闘を挑み、魔法の秘術を尽くしてその所業を絶とうとするが・・・。

ラストシーンが美しい。親方との死闘の後、主人公とその恋人は年の移る夜、粉雪の舞う森に肩を寄せ合って去ってゆく。恋人たちに恐れるものは何もない。なぜなら幸福とは、魔法ではなく、かけがえのない人の信頼に、粛々とした日々のいとなみにあることを、二人は知っているからである。

—あらすじ—

その昔、ドイツがザクセン侯国と呼ばれていた頃。正月から仲間と一緒に物乞いをしてさまよっていた14歳の少年クラバートは、ある夜、不思議な夢を見る。11匹のからすが止まり木に止まっていてクラバートの方をじっと見ている。そして話しかける—「クラバート、シュヴァルツコルムの水車場に来い。お前の損にはならぬだろう!」。その声に導かれて一人、クラバートはコーゼルの湿地のシュヴァルツコルムの水車場に行き、親方に「ここで働きすべてを学ぶ」ことを約束してしまう。そしてあくる日からその水車場でほかの11人の若者の職人たちと一緒に製粉の仕事をするようになる。いきなり朝から夕方まで働くきびしい力仕事で毎日、クラバートはふらふらだった。だが助けてくれる人がいた。職人頭のトンダが親方の目を盗んでクラバートを見にやってきて、手をクラバートの肩にかけると「仕事の疲れや痛み」がうそのようになくなり、新しい力がみなぎってくる。クラバートは水車場から脱走しようところみるが何度やっても失敗する。気がつくとも水車場の前に来ているのである。しかも「その脱走の失敗」を夢で見て知るのだ。

春になるとクラバートは他の職人たちと魔法の授業を受け始める。金曜日の夜に職人たちは、親方から世界中の魔法が書いてある『魔法典』の魔法を週にひとつ、教えてもらうのである。クラバートは人から聞いたことのある魔法の学校が本当にあることに驚き、そこで魔法を学ぶことになる。最初におぼえたのは「井戸をからして、その日から翌日にかけて水が出ないようにする術」である。

春分の後に復活祭(キリスト生誕を祝う祭り)をむかえると、「魔法の体力」が身についたことにクラバートは気づく。今まで、力をふりしぼってかつがねばならなかった小麦袋が、羽根布団のようにかるくなっているのである。「この水車場の職人たちは朝から夕方までは、どんな力仕事もらくらくとこなせる」とトンダから教えられる。クラバートには、復活祭の前の晩、トンダと2人でシュヴァルツコルムの荒野で過ごした時のことが忘れられない。トンダはその時「自分は、ここで働いているためにひとりの娘を死なせてしまった」と話したのである。そして復活祭の朝、たまたま出会ったシュヴァルツコルムの、聖歌のコーラスのソロを歌う少女も忘れられない。その年の暮れ、トンダが謎の死を遂げ代わりに新しい見習いの少年が水車場にはいつてくる。

魔法を覚えはじめたクラバートは仲間とともに、自由に何にでも変身し、どんなものも「別のもの」に変え、どんな人間でも自分の思うとおりに動かせる術を身につける。だが3年目にして初めて「ここで魔法をつかえる者は、毎年一人、親方の身代わりに死ななくてはならない」と知る。トンダの仇をうつため、クラバートは親方と対決することを決心するが、それには自分だけでなく「自分を愛している娘の命も危険にさらす」という条件があった……。 (小学校上学年から)